

# 箱根で琳派 大公開

# 箱根で琳派 大公開



## 講演会

### ①「琳派400年と岡田コレクション」

講師：小林 忠（岡田美術館館長）

日時：2015年9月27日（日） 午後1時～午後2時30分

### ②「宗達から光琳へ—水墨画を中心に—」

講師：河合正朝氏（千葉市美術館館長・慶應義塾大学名誉教授）

日時：2015年10月25日（日） 午後1時～午後2時30分

### ③「京琳派と江戸琳派」

講師：小林 忠（岡田美術館館長）

日時：2016年3月6日（日） 午後1時～午後2時30分

会場：5階ホール 参加費：無料（要入館料） 定員：先着80名

## 【お申込み方法】

電話にてお名前・お申込み人数・ご連絡先をお知らせください。

定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます。

【電話番号】0460-87-3931（岡田美術館代表）

## ギャラリートーク

### ・館長によるギャラリートーク

2015年9月15日、10月14日、11月11日、12月24日、  
2016年1月27日、2月24日、3月16日

### ・学芸員によるギャラリートーク

2015年9月11日～2016年3月18日の毎週金曜日

いずれも午前11時～ 申込不要・参加無料（要入館料）

## リピーター割引 第一部・第二部あわせてご来館下さい。

第一部の入館券のご呈示で

第二部での入館料が2000円になります。

※ 第一部の入館券1枚につき、お一人様1回限り有効。

※ 他の割引との併用はできません。

- ①：酒井抱一《月に秋草図屏風》（部分）
- ②：尾形光琳《菊図屏風》（部分）
- ③：尾形乾山《色絵電田川文透影反鉢》
- ④：伊年印《扇面散図屏風》（部分）
- ⑤：鈴木其一《秋の七草図》（部分）
- ⑥：神坂雪佳《燕子花図屏風》（部分）
- ⑦：鈴木守一《富士図屏風》（部分）

## 第一部：京都編—宗達・光悦・光琳など—

2015年9月5日【土】～12月15日【火】

## 第二部：江戸・大坂編—抱一・其一・芳中など—

2015年12月19日【土】～2016年3月31日【木】

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

※休館日：12月16日（水）・17日（木）・18日（金）・31日（木）・2016年1月1日（金）

入館料：一般・大学生 2,800円 小中高生 1,800円

※団体割引（10名以上）・障害者割引あり ※美術館ご利用の方は、駐車場・足湯入湯料無料

後援：琳派400年記念祭委員会

## アクセス

《電車・バスをご利用の場合》※所要時間は、交通状況によって大きく異なります。

小田急線（特急ロマンスカー）で「箱根湯本駅」【約90分】

新宿駅から ①伊豆箱根バス（のりば①）・箱根登山バス（のりば②）で「小涌園」【約20分】

②箱根登山鉄道で「小涌谷駅」【約35分】

⇒伊豆箱根バス・箱根登山バスで「小涌園」【約2分】

東京駅から 東海道新幹線（こだま）で「小田原駅」【約35分】

⇒伊豆箱根バス（のりば⑤）・箱根登山バス（のりば③）で「小涌園」【約40分】

《お車をご利用の場合》※所要時間は、交通状況によって大きく異なります。

東名厚木IC⇒小田原厚木道路⇒箱根IC⇒国道1号線⇒岡田美術館【約60分】

東名御殿場IC⇒国道138号線⇒宮ノ下⇒国道1号線⇒岡田美術館【約40分】



岡田美術館  
OKADA MUSEUM OF ART

〒250-0406 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1

TEL: 0460-87-3931 (代表)

www.okada-museum.com

# 箱根で琳派 大公開

The Entire Okada Collection of Rimpa :

Hakone Joins the Rimpa 400 Year Celebration

## 第二部

### 江戸・大坂編—抱一・其一・芳中など—

2015年12月19日[土]~2016年3月31日[木]

## 第一部

### 京都編—宗達・光悦・光琳など—

2015年9月5日[土]~12月15日[火]



酒井抱一《月に秋草図屏風》江戸時代文政八年(一八二五)



鈴木其一《木蓮小鶯図》江戸時代後期



鈴木其一《秋の七草図》江戸時代後期



鈴木守一《富士図屏風》江戸時代末期~明治時代初期



中村芳中《扇面貼付屏風》(部分) 江戸時代後期

## すべて見せます 岡田美術館のRIMP A



依屋宗達《明石図》源氏物語図屏風断簡(部分) 江戸時代初期



依屋宗達下絵・本阿弥光悦書  
《花井に蝶摺絵新古今集和歌巻》(部分)  
桃山~江戸時代初期



伊年印《扇面散図屏風》江戸時代前期



尾形光琳《雪松群禽図屏風》江戸時代前期



尾形乾山作・光琳画《銕絵白梅図角皿》江戸時代前期



尾形光琳《菊図屏風》(部分) 江戸時代前期

金地に緑青や群青が映えるあでやかな屏風、金・銀の下絵と書が競演する和歌巻、やわらかな水墨の掛軸など、琳派の作品の数々は、古来、私たち日本人が美しい自然とともにごくくんできた情感や美意識が見事に結晶したものと いえます。桃山~江戸初期の頃、京の本阿弥光悦と依屋宗達が古典を大胆に翻案し、和歌の色紙・巻物などを作ったことに始まり、時を経て尾形光琳、大坂の中村芳中、江戸の酒井抱一・鈴木其一らに継承され、発展してきました。

今年、光悦が洛北・鷹ヶ峯の地を徳川家康より拝領したという元和元年(一六一五)を起点に「琳派四〇〇年」が謳われています。本展は、この記念すべき年に岡田美術館の琳派の全貌を二期に分けて展示するものです。当館は、十数年前、光琳筆「雪松群禽図屏風」との出会いを機に名譽館長岡田和生によって設立が構想され、収集においても琳派に力が注がれてきました。七〇件に上るその作品群は、「岡田美術館の原点」としてコレクションの中核をなしています。菱田春草・速水御舟・前田青邨らの、琳派への憧憬を色濃く示す絵画と併せ、約八〇件の作品をお楽しみください。